

カナダに於ける歯科教育の歴史

第5報

—1880～1889年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—^{*1}

尾島 光栄^{*2} Kenji Kenneth SHIMIZU^{*3}

要旨：1880～1889年間に於けるカナダ全域、特に、西部地域の開発に伴う都市化のなかで歯科学、歯科診療、歯科医師会、歯科医師の体質改善等に貢献した諸人物像に就いて、彼等のプロフィールや業績を第4報に引き続いて紹介する。

During the period from 1880 to 1889 in all Canada, in especial modernizing western zone of Canada, Authors tried to introduce the contributors and their profiles and the efforts on the Dentistry, Dental Techniques, Association of Dentists, Morality of Dentists continued from No.4.

Key words：Dentistry 歯科学, History of Dental Education 歯科教育歴史, Contributors of Dental Education 歯科教育貢献者

1. はじめに

カナダ全域、特に西部地域の植民地政策の強化拡大と共に、農業、林業、漁業、鉱業等に従事する各地からの移民人口の増加が進行し、それに伴う新都市化傾向が各地に生じ、生活環境整備の一方、流入移動する歯科医達の登録、診療技術の向上、歯科医師会の結成、歯科医師の養成機関の設立運動等と、一歩前進した東部諸地域の歯科事情に大活躍した1880～1889年間の諸貢献人物像

について、日本歯科医史学会々誌、20巻、3号(1995)、第4報¹⁾の続報として、Gullett²⁾の著書を抜粋翻訳紹介して、本間の著書³⁾より抜粋した同時代の日本近世歯学史・社会・文化史年表(Fig. 1)を照合紹介する。

2. 主な登場人物—登場順—

Frederick Davis Shaw (Fig. 2)
William Wilson
A. H. (Sandy) Goodwin
Lorenzo D. Keown
James L. Benson
Thomas J. Jones (Fig. 4)
W. D. Cowan
C. A. Murray
A. J. McAvenny
Alfred Chipman Cogswell (Fig. 5)
John S. Bagnall
J. B. Willmott
Sir William Mulock
G. H. Hanna
Charles Nelson Johnson

^{*1} History of Dental Education in Canada, No.5 —Contributors of the Dentistry and Dental Education during the Period from 1880 to 1889—

^{*2} Koei Ojima, The Nippon Dental University, School of Dentistry at Tokyo, Department of Physiology 日本歯科大学歯学部、生理学教室

^{*3} Kenji Kenneth SHIMIZU, The University of British Columbia, Faculty of Dentistry, Department of Clinical Dental Sciences, Division of Prosthodontics and Department of Oral Medical and Surgical Sciences プリティッシュ・コロンビア大学歯学部臨床歯学部、補綴学部門、口腔医学・外科学部門

西暦	和暦	歯 学 史	社会・文化史
1880	明治 13	キングスレー：口腔畸型を出版 桐村克巳：歯乃養生法を発刊 パスツール：ワクチン免疫に成功 ルメストル：口角糜爛を記載 リッチモンド：継歯の考案 イーストレーキ、再び来日	○ 1880：ドストエフスキー (F. M. Dostoevski, ロシア), カラマゾフの兄弟を出版 ゾラ (E. Zola, フランス), ナナを出版
1881	明治 14	伸沢道盛：固齡草出版 コッホ：化膿菌としてレンサ球菌を発見す	○ 1881：国会開設の詔 (昭和 23 年を開設の期とす) パナマ運河の工事開始
1883	明治 16	ミラー：齲蝕の化学細菌説を発表す	
1884	明治 17	コルレル：コカインによる局所麻酔法を実施す リンガー：生理的代用液 (リンガー氏液) を考案 グラム：グラム氏染色法を発表 ベルリン大学に歯科部を設置	
1885	明治 18	パスツール：狂犬病の予防に成功す 内務省医術開業試験に女子 (荻野吟子) 合格す	○ 1885：内閣制度制定 イーストマン (G. Eastman, アメリカ), 写真フィルムの製造に成功
1887	明治 20	アングル：歯列矯正に関する研究 日本薬局法成る (明治 37 年 7 月より施行公布)	○ 1886 (明治 19)：帝国大学令公布 メートル条約に加入 ○ 1888 (明治 21)：君が代を国歌に制定 コダック (Kodack, アメリカ) 小型フィルム使用の写真器の完成
1889	明治 22	ランド：ポーセレンジャケット冠の発表 北里柴三郎：破傷風菌の培養に成功す パプロフ：胃の分泌神経を証明 カハール：ノイロン学説成る 第 1 回万国歯科医会議バリーに開催さる	○ 1889：大日本帝国憲法発布 大槻文彦, 言海を著す

Fig. 1 1880～1889 年の日本近世歯学史・社会・文化史年表
(本間邦則著：歯学史概説 109 頁より抜粋)

C. F. F. Trestler

W. George Beers (JSDH, 20(3), Fig. 2)

James Wellington Ivory

Oliver Martin

3. Expansion (1880～1889)

カナダ西部の開拓は 1880 年代の Dominating feature で, 17 世紀に各地の Indian tribes は各種の条約に署名されていた。

North West Mounted Police は後に Royal Canadian Mounted Police となり, 広大な準州の命令の遵守のために形成された。

1885 年 11 月の Canadian Pacific Railway (CPR) の完成時には, それらの地域は荒地であったが, 多くの魅力ある植民地でもあった。

カナダで最初の大陸横断旅客列車が 1886 年 6 月に, 希望に満ちた自作農地を夢見る移民団を乗せて Montreal を出発した。

西部地域の活動に刺激されて東部の砂丘地も元

気づいて, Halifax と中央カナダを結ぶ植民地間の鉄道も 1880 年に完成された。

沿岸地方間の鉄道輸送の達成はカナダ全体にも急速な発展の時期をもたらし, 集落は村に, 村は市へと発展した。

Winnipeg は全北西部の経済的中心地となり, 1890 年には 25,000 以上の人口の都市になった。

Regina は準州の行政の中心地となり 2,000 人の大きな社会を形成していた。

1875 年 Bow と Elbow の合流地にある Calgary は North West Mounted Police の砦として開設され, 1883 年 CPR がそこに到達した後, 1890 年には約 4,000 人以上の人々がログハウスに住んでいた。

Vancouver を CPR が都市輸送の西部の終点に選択したので, 小さな材木を切り出すための村から 1891 年頃には 13,700 人の人口の市になっていた。

大陸間鉄道の完成とともに Halifax も勢力を



Fig. 2 Frederick Davis Shaw (1856~1926)

得て、1891年には38,437人の市になった。

歯科も国の発展に伴いはじめ、AlbertaとSaskatchewan州の全域を含む巨大なNorth West Territoryで最初に認定された歯科医はF. D. Shaw (Fig. 2)であった。

彼は開拓者達の家系で、MDを持った卓越した人物であった父W. H. Shawの息子としてNova ScotiaのKentvilleで生まれた。

ShawはU.S.A.の私立歯科学校を卒業したが、彼の出身州での診療は困難であったので、4~5年間、大陸横断鉄道の会計検査官の地位を得たが、西部からの強い招きで1880年にはNorth West Mounted Policeと提携し、Staff Sergeantに昇進する4年間で精力的に働いた。

1884年3月5日に彼は父の病気のため退職するが、間もなく父は亡くなり、Nova Scotiaへ帰ってからHalifaxのA. M. Mornと結婚し、彼女の母、3人の兄弟、1人の妹、従兄弟達と共に西部へ移動した。

1885年彼等は最初のCPRの一員として、Calgaryは到着後、Fort MachLeodへ向かって乗り合い馬車で最後の旅行をした。

この地域の人口は少なく、散在していたが、Shawは歯科の診療が出来ると決心した。

彼は女王の許可によるNorth West Territory評議会会員になると同時に、獣医師の許可も得て、彼自身が四輪馬車を仕立ててFort MachLeod,

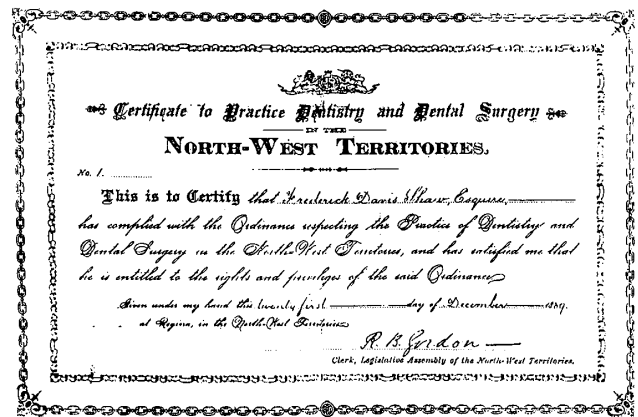


Fig. 3 The first licence to practise dentistry in the North West Territories

Princher Creek, Lethbridgeを規則的に正しく巡回して回った。

彼はこれらの地域の重要な市民として、歯科及び獣医師として活躍し、やがてSt. Mary地区の税関の検視官と収税官にも任命された。

1889年North West TerritoryのDental Registerが設立された時にはShawの名前はその年度の唯一の許可氏名であった (Fig. 3)。

“Tug Wilson”として抜歯で地域に知られたWilliam WilsonはCalgaryのログハウスに於ける診療の最初の歯科臨床家で、ShawがMachLeodで開業後の1885年に出版されたCalgary市の人名録には、無痛抜歯の広告とともに、その氏名が記載されている。

Edmontonでは1891年に最初の定住した歯科診療所がA. H. (Sandy) Goodwinによって設立されたが、彼はNew BrunswickのBaie Verte出身で、後にNewfoundlandで最初の認定歯科となったW. S. Goodwinと同家系の一員である。

1889年に彼はBaltimoreの歯科大学を卒業、2年後にNew Brunswickで短期間の歯科診療をしてから西部へ移った。

彼の目的地であるEdmontonにCalgaryから第二番列車で到着した時には、Edmontonは1,500人の人口で、その町のJasper AvenueのMrs. Kelly'sの木造小屋の前室が月10\$の賃料で彼の診療所となった。

Lorenzo D. Keownと彼の弟Williamは1886



Fig. 4 Thomas Joseph Jones, LDS,
father of dentistry in British
Columbia

年に Regina で診療所を開設したが、当時は、彼等は約 700 Miles もある Brandon と Calgary で唯一の歯科診療所といわれた。

その後、兄 Keown は Regina に将来の期待を持たず Moosomin に移って半世紀以上も診療に従事し、弟 William は Regina に留まっていたが 1899 年に死んだ。

Lorenzo D. Keown は 25 年間も Saskatchewan 歯科医師会に奉仕し、彼の手腕は各方面でも認められ、幾つもの公共の役所にも奉仕した。

彼は政治的には一生を保守党員で通して、North West Territory に於いて政党を組織する一方、移民に対する診療のために馬と二輪馬車での長旅を強いられた。

当時、West 地方では町での診療所での稼ぎでは収入が少なく、やむを得ず肉体的障害を経験しながら種々の方法で分散している移民のための歯科診療のために長旅の巡回をした。

1860 年後半に於ける Ontario と Quebec の例に習い、Canada の他の州でも歯科医師の認定登録を得る努力が行われ、1883 年には Manitoba 歯科医師会の設立行動が James L. Benson の努力

で結ばれ、後に彼は最初の会長になった。

British Columbia での主役は Thomas Joseph Jones (Fig. 4) で、彼は Toronto で生まれ、1860 年から歯科医学を学び始め、20 年間 Bowmanville と St. Catharines で診療に従事し、その間、彼は Ontario 歯科医師会長を勤めた。

1884 年に彼は Victoria に移住し、残りの 40 年間をそこで診療に従事した。

歯科活動の盛んな Ontario からやって来た彼は British Columbia でも歯科の認可制を煽動して 1886 年には成功を収め、続く 3 年間に 21 人：Victoria 11 人、Vancouver 4 人、New Westminster 4 人、Nanaimo と Barkerville 各 1 人が歯科診療の免許を得たが、その内訳には医科と歯科の両免許資格の保有者が 1 名、歯科免許が 9 名、LDS の資格者が 3 名も含まれていた⁴⁾。

明らかに州の歯科集団はあるにはあったが、正式な British Columbia 歯科医師会の設立は 1891 年であり、Victoria での最初の年頭会議で Jones が会長に選出された。

1896 年 4 月の Victoria Daily Colonist の特別出版号には T. J. Jones が最新の診療設備に加えて、進取的な愛国心のある第一級の市民として記載され、“Father of Dentistry in British Columbia” なる称号で表彰した。

New Brunswick は 1890 年に、Nova Scotia と Prince Edward は 1891 年に、Newfoundland は 1893 年に、North West Territories 議会は 1889 年に法律の制定を行い、Regina は W. D. Cowan の努力で歯科医師の規制が行われた。

New Brunswick では他の人達の失敗の後に、Moncton の C. A. Murray が成功し、その闘志に力を得た行動は他の州にも波及し、Saint John の A. J. McAvenney は最初の会長に就任し、Nova Scotia では Alfred Chipman Cogswell (Fig. 5) が貢献している。

A.C. Cogswell は Nova Scotia で最も卓越した家系の一員で、1860 年からその世紀の終末まで州の指導的な歯科医師であった。

彼は 1834 年 Cornwallis で生まれ、2 年間 Acadia College で学び、Maine の Portland 近く

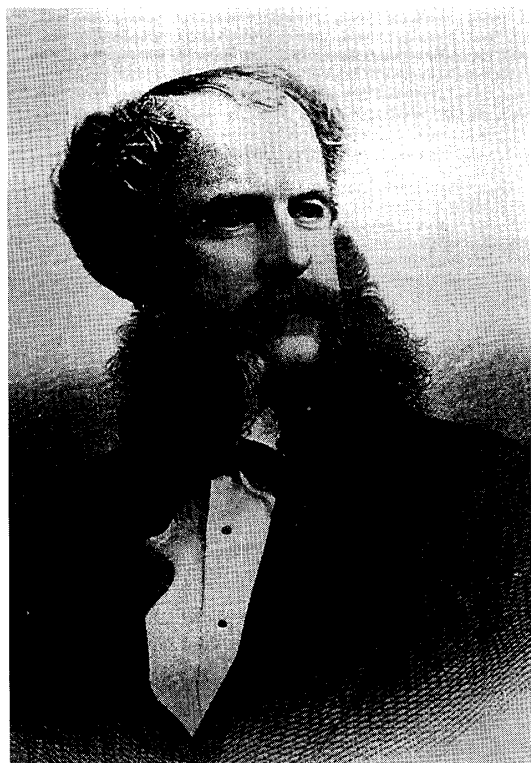


Fig. 5 Alfred Chipman Cogswell, DDS, of Halifax (1834~1904)

の彼の父の農場で2年間を過ごし、その後、その市の Edwin Parsons の年季奉公についた。

彼は New England で数年間診療に係わり、1859年には Halifax に移り住み、一冬期間は Philadelphia Dental College に入り、1869年に卒業し、その同じ年に Ontario での免許試験に引き続いて、Nova Scotia でも最初の免許取得を試みたが、この努力は彼が以前に de Cheverie affair に関係していたために失敗した。

彼は20年間この目的を追求し、この期間中歯科の文献に現れる Nova Scotia のあらゆる情報は彼のペンから出ていたし、1891年には遂に Nova Scotia 歯科医師会を法人組織にした。

一方、彼は大変な旅行家でもあり、1904年の旅行中に Mexico 市での偶発事故で射殺されてしまった。

1891年の Nova Scotia と同様な歯科の行動が政治団体としての会の名前ではないものの、Prince Edward Island でも実施されたが、他の州との相違は歯科医師数が少ないことで、当時の Prince Edward Island は唯の7人しか数えられなかった。

その行動は Dalhousie University の学長になった J. Stanley Bagnall の父 John S. Bagnall この一人の男の努力で行われ、1901年に歯科医師会が設立され兄の Bagnall が初代の会長になり、後に職業上の政治団体になった。

その後、1893年 Newfoundland の植民地政府は歯科活動を規制し、全州にわたって歯科の免許制度が敷かれた。

1888年の最も注目すべき出来事の一つに、Toronto の Dental school が University of Toronto の附属になり、Department of Dentistry (Royal College of Dental Surgeons) を設立し、その理事会の容認事項として、歯学部でのカリキュラムを満たした学生には Doctor of Dental Surgery (DDS) の学位を授与することになった。

また、入学試験や履修課程にも大学の許可が必要になり、最初の学位試験が1889年3月に行われ25人が合格した。

これらの合格者達は U.S.A. の歯科卒業生以外で許可された最初の学位取得者である。

1868年の Ontario に於ける歯科の合併と、1875年の歯科の学校の設立の次には、この日を境に職業としての歯科の最大の前進を得て、歯科の学問的な立場も向上した。

幾人もの先達が目的に向かい時代的貢献をするが、J. B. Willmott は20年も継続して歯科の地位向上に尽くし厚い信頼を得た。

大学側に於ては William Mulock (後に Sir William となる) が大学副学長として、歯科を認める運動のために彼の同僚達を説得して回り、彼は公共の事業にも積極的な奉仕をし、その時代の著名な市民の一人となり、後には学長となって活躍した。

歯科学の基礎は専門雑誌の復活で非常に強力となり、Dominion Dental Journal が開始、1889年の初刊は編集者として W. George Beers が出現し⁵⁾、その後、友好的な協定によって、Canada Journal of Dental Science として新しい出版の引継ぎが行われ、初年度は年4回、次年度は2ヶ月に1度、1893年には月刊誌となり、その後更に40年以上もの間、良く歯科医学に貢献し、Tor-

onto で出版される雑誌, Journal of the Canadian Dental Association に合併吸収された。

この時代の経済事情については、後に Ontario Board の議長になった G. E. Hanna によって詳細に記述されている。

彼は臨床に従事する歯科医師の診療内容や支払われた計算書、料金表等を克明に記載し、その1例について次の如く報告している。

Miss Lizzie : 9 本充填して 5 \$ の支払い

Miss Maggiess : 25 Cent で抜歯する

Angus : 1 本充填, 1 本抜歯で 1 \$ の支払い

その他合計 13.75 \$ は物々交換で済す。

Charles Nelson Johnson は Ontario の農業集団で生まれ、その後 1881 年 Royal College of Dental Surgeons を卒業した。

彼は Collingwood で診療所を開設する一方、*“The Teeth, their Importance and How to Preserve them”* と題するパンフレットを出版して広く啓蒙宣伝をした。

1883 年の終わり頃に彼は Chicago へ行き、そこで最高位の地位にランクされる著名な America の歯科医師の一人になった。

彼は Chicago で生活しながらも Canada の歯科に 40 年以上も最大級の貢献をなし、彼の知名度は他の多くの人物の氏名よりも頻繁に Ontario Dental Association の議事録に記載されていた。

彼は多作な著作者の一人として、熱心な愛読者を持ち Canada Dental Literature にも多大な貢献があったので、1932 年 Toronto 大学は彼に法学博士号を授与し、1938 年の彼の死に際して Canadian dentistry は輝かしい贈物を、そして 1924 年の Toronto での彼の名誉を讃える夕食会では次の言葉が語られた。

“He helped his fellow men and he stopped to aid a fallen comrade whenever he saw one down and put a prop under those whom he found trembling in the balance”⁶⁾

1889 年の中央の州の Coming-of-age 祝賀会の席上で日付が替わり、未来へ向けての予言が行われた時、Quebec Board の議長 C. F. F. Trestler は Ontario と Quebec との比較から、彼の州には

職業階級に於ける多数の弱点と、二重外国語の 2 つの大きな困難があると指摘し、これらの問題が諸活動の進行を高価なものにしていると述べている。

歯科事業に対する支援不足から Quebec では歯科医学校の設立は実際問題として困難で、一方では、フランス系の学生が大多数を占めるも歯科学校は英語系で、市民の要求は 2 つの方法での教育体系の設立を保証しなかった。他方では、Quebec での最大困難事の 1 つに、偽医者と無資格臨床医を効果的に取り扱う事の難しさがあった。

しかし、歯科関係の法律の改善策によって、諸問題が解決に向かい、Trestler は Quebec に於ける歯科学校の設立者の一人になった。

また、彼は医学部卒業者であったので、彼の歯科診療に際してクロロホルムと笑気を使用した Canada での最初の一人でもあった。

彼等の 21 歳の誕生日には Review の創立者や貢献者達からその栄誉が讃られ、Quebec では Bernard, Baillargeon, Trestler, Brewster, LeBlanc, Beers, Bazin, Webster 等が歯科の榮譽殿堂に飾られ、Ontario では Day, Wood, Relyea, Chittenden, O'Donnell, Willmott 等の名前が誇り高く注目された。

しかし、不幸にも時代はその犠牲を齎して、Quebec では Bernard が 1876 年に、その年の末には Baillargeon, Webster が逝去し、Brewster は引退し、LeBlanc は 6 年以上も大臣を勤め、Beers と Willmott は Quebec と Ontario の 2 州に於て優れた歯科人として讃えられた。

Ontario では最初の信念の人で精力的に働き、種々の功績を残した C. S. Chittenden がこの年に逝去し、Day と Relyea は U.S.A. へ去り、O'Donnell は 1879 年に死亡した。

W. George Beers の広範囲な活躍と彼のカナダ生活に於ける際立った影響は特記される。

彼は強烈な愛国者で民衆の受けも良かった。1880 年の U.S.A. と Canada 間の政治的争いの時、彼は Syracuse の New York State Dental Society に於て “Canada Not For Sale” と題して演説した。

彼の言葉は洗練されていて聴衆は彼の演説に強く印象づけられ、カナダの新聞は彼の演説を広く

伝え、その後も長い間論説に引用して止まなかった。

その演説は次の通りであった。

“I am sure that you could have nothing but contempt for any free people who measure their allegiance purely by commercial standards, and who, fearing to face the difficulties which meet every nation, turn peddlers instead of protectors of their national birthright. Just as you had and have your croakers and cowards we have ours, but Mr Chairman, Canada is not for sale”

この演説文は1911年の合衆国選挙にも大きな影響の要因となり、1916年の彼の死後にも、約16年間もその全文が再三出版された。

この時代に出現する名前の中には、多くの臨床歯科医から親しまれた James Wellington Ivory の名前がある。

彼は Ontario の Newcastle で誕生し、1887 年に Royal College of Dental Surgeons を卒業し、6 年間 Toronto で診療に従事した。

彼の趣味は機械類を発明する事で、Toronto を離れ、Philadelphia へ行き、その地で彼は J. W. Ivory 有限会社を設立して歯科用器械類の製造に専念し、彼の生涯を通じて彼は多数の特許を獲得し、彼の考案した器械類は広く使用された。

1889 年代には、British Columbia では 21 人、Nova Scotia では 40 人、Quebec では 117 人、Ontario では 494 人の歯科医達が登録されたが、しかし、他の州では僅か数名の歯科医達に止ど

まっていた。

彼らは近代的な基準に従いながらも、5 万人の人々に貧しい歯科の奉仕を強いられて、最大州の Ontario でもその率は人口 4,000 人に対して 1 名の歯科医師以下の状態であった。

また、全ての歯科組織団体が努力の目標を高めているにも拘らず、歯科の医療奉仕等に対する民衆の認識不足は最大の問題であった。

この時代の Oliver Martin は彼のコメントで“変革は幾つかの困難を招き、特に旧体系にある人々には混乱が生ずるが、今や歯科は過渡期を迎え、新しい環境に順応する時期に面し、原則の確立された職業として、倫理を習得しなければならない”と述べている。

参考文献

- 1) 尾島光栄, K. K. SHIMIZU : カナダに於ける歯科教育の歴史 第 4 報—1870~1879 年間の歯科及び歯科教育の貢献者像—, 歯医史 20(3) : 171-177, 1995.
- 2) Gullett, D. W. : A History of Dentistry in Canada, The Canadian Dental Association by University of Toronto Press, Toronto and Buffalo, 1971, 66-80.
- 3) 本間邦則 : 歯学史概説, 医歯薬出版, 東京, 昭和 46 年 9 月, 109 頁.
- 4) British Columbia Gazette, 16, January, 1890.
- 5) Dominion Dental Journal, October, 1890.
- 6) Text of an address by F. J. Conboy, Dominion Dental Journal, Vol. 37, March, 1925.

著者への連絡先 : 尾島光栄

〒102 東京都千代田区富士見 1-9-20
日本歯科大学歯学部生理学教室
Tel. 03-3261-8311 Ext. 328